

(別添1)

令和7年度老人保健健康増進等事業

東北管内伴走支援における支援者に必要なエレメント（要素・条件等）の整理に係る調査研究

株式会社日本能率協会総合研究所

(事業の背景)

高齢化の進展や地域課題の複雑化を背景として、市町村には、地域の実情に応じた柔軟かつ持続的な取組が求められている。とりわけ、総合事業や介護予防・地域づくりの分野においては、制度理解や事業設計に加え、関係者間の調整や合意形成を要する場面が多く、市町村単独での対応が難しいケースも少なくない。

こうした状況の中、都道府県等による市町村支援の役割は一層重要性を増しており、単なる助言や指示にとどまらず、市町村とともに考え、取組の進行を支えながら、主体性や自走力を引き出す「伴走型の支援」の必要性が指摘されている。しかしながら、伴走支援に求められる力は多岐にわたる一方で、その具体像や人材像については、これまで経験や感覚に委ねられる部分も多く、体系的な整理が十分になされていないという課題があった。

(事業の目的)

本事業は、都道府県による市町村支援の質の向上を図るための基盤づくりとして、市町村とともに伴走しながら取組を支える人材に求められる知識・スキル・姿勢を整理・体系化することを目的として実施した。

あわせて、整理した要素を単なる理想像や能力要件として示すのではなく、支援体制の検討や人材育成、役割分担等に活用可能な「共通言語」として位置づけることを重視した。

(事業概要)

#### 1. 委員会の設置・運営

本事業では、学識経験者や市町村支援の実践者等で構成する委員会を設置し、伴走支援に必要な要素（エレメント）の整理方針や構造、表現の精緻化について検討を行った。

委員会は年度内に複数回開催し、エレメントの全体像の確認から、研修や成果物への反映を見据えた具体化まで、段階的な議論を行った。

#### 2. 東北6県意見交換会の実施

東北6県の担当者等が参加する意見交換会を開催し、各県における市町村支援の実情や課題、取組の工夫等を共有した。

県ごとの状況の違いを踏まえつつ、伴走支援に求められる人材像や支援の進め方について意見交換を行い、エレメント整理の妥当性や活用可能性について検証した。

#### 3. 伴走支援人材育成研修の実施

整理したエレメントをもとに、伴走支援人材育成研修を実施した。

本研修では、知識の習得にとどまらず、対話やケース検討、ロールプレイ等を通じて、エレメントが実際の支援場面においてどのように発揮・組み合わせられるかを体験的に理解できる構成とした。

(本事業で整理したエレメントの特徴)

本事業では、伴走支援に必要な要素を、「人に働きかける力」「活動を適切に進める力」「解決方向に向かう力」の三つの領域に整理した。さらに、それぞれの要素について、基礎的な段階から中核的に発揮される段階までの構造を明らかにし、支援の局面や役割に応じて使い分けられる整理とした。

また、すべての支援者が同じ要素を同じ水準で備えることを前提とせず、複数の関係者がチームとして役割を補完し合いながら支援を行うという考え方を明示した点に特徴がある。加えて、関係者をつなぎ、状況に応じて支援の進め方を調整する「中核推進役」の重要性が、委員会や研修を通じて共通認識として整理された。

(成果と今後への示唆)

本事業を通じて、これまで暗黙知として扱われがちであった伴走支援の在り方について、共通の言葉と構造で整理する枠組みを示すことができた。

整理したエレメントは、個人の能力評価のためのチェックリストではなく、支援体制の検討や人材育成、関係者間の認識共有を図るための基盤として活用されることを想定している。

今後、各都道府県において、市町村支援体制の構築や支援人材の育成を検討する際、本事業で整理したエレメントや取組プロセスが参考資料として活用され、伴走支援の質の向上や持続的な支援体制の整備につながることを期待される。